

## 短期大学入学後早期の学生が、保育現場の環境及び保育を見学する意義

富山 大士  
浅井 拓久也  
中村 陽一  
塩崎 みづほ  
豊泉 尚美

A Study on Learnings from Observation of Practice and Environment  
in Nursery School : Focusing on Questionnaire at Several Months After Admission

Futoshi Tomiyama  
Takuya Asai  
Yoichi Nakamura  
Mizuho Shiozaki  
Naomi Toyoizumi

キーワード : 保育、環境、保育者養成、新入生、保育見学

Key Words : childcare, environment, training of freshman, observation of nursery school

要約 : 本研究では、まだ保育現場のイメージが十分に形成されていない短期大学入学後間もない学生が、保育の場の見学を通して、乳幼児の過ごす場の保育環境や、保育自体への具体的なイメージが形成されていく効果を明らかにすることを目的とした。見学後の学生による質問紙調査を通して、保育の場の見学体験は、保育環境や保育自体への具体的なイメージを形成する効果があり、履修中の教科の理解と関連づけて保育に関する理解が深まる様子もが明らかになった。

Abstract : The purpose of this paper is to show how students make observations for, and have the specific images of environment and practice for children in nursery school at several months after admission. According to our questionnaire, it's suggested that students' observation of nursery school leads to their clear images of environment and practice for children, and the deep understandings of a variety of subjects on nursery school.

## 1. 本研究の背景

核家族化が進む中、直近の3年以内に絞って乳幼児との関わる経験をたずねてみても、関わりのあった学生は2割程度しかいないという実情がある。

日本全国の保育者養成校を対象とした質問紙調査(2016年度～2017年度に実施)によると、保育実習に先立つ体験的学習の実施率は、2年制短期大学・3年制短期大学・4年制大学を合わせて、実施率が64%に達していることが報告されている<sup>1)</sup>。この報告によると「保育実習に先立つ体験的学習」の意義として「子どもとふれあう体験」「子ども本来の姿のイメージ」「講義の理解」という3つの視点で解析がなされている。

実習を通して保育者としての体験を行うことで経験を重ね、卒業後に保育者になることに対する期待感が醸成されていくことが望まれる。しかし、実際には、実習における学生側の戸惑いが直接の原因となって、保育に対する期待感が失われてしまう現象もみられる。幼稚園教諭免許や保育士資格を有する保育者となるための教育実習(幼稚園)や保育実習(保育所)における戸惑いが原因で保育者になる意欲までもが失われてしまうとすれば、それは非常に大きな問題と考えられる。

しかし、この先行研究では、短期大学・4年制大学に切り分けたそれぞれの要因につながる要因分析がなされていない。

短期大学では、4年制大学よりも養成校の低学年から実習に臨む傾向にある。特に2年制短期大学では、例えば1年次の秋には初めての实習に臨む養成校もある。入学してすぐに保育現場を体験することで、少しでも保育現場のイメージを早期から学生が身につけることで、いざ実習で出会った困難に対する戸惑いを少しでも小さなものと、大きな意欲減退につながることはないようにすることが望まれる。

本研究では、2年制昼間部のコースを有する保育者養成校であるA短期大学(埼玉県)の1年生を対象として5・6月に2回に分けて全員の学生を1回ずつ「実習に先立つ体験的学習」の機会を実施した。また、体験的学習の直後に学生を対象とした質問紙調査を行い、体験的学習による効果を検討した。

A短期大学における入学後早期の学生の今回の見学体験が、保育現場の環境及び保育の学生による理解にどのような意義として捉えられ、学びとなったのかを調査し、今後の同様の取り組みの際の改善事項を明らかにすることを目的とした。

## 2. 研究の方法

### 2-1) 認定こども園見学の流れの決定

東京都H市内の私立M認定こども園(幼稚園型および保育所型を併設)にて1年生160名が訪問見学をすることを想定し、園と相談の上、80名ずつの単位に分割して訪問日程を下記

のように 2 日程に分散させて見学することとした。

A グループ：2016 年 5 月 26 日(木) 午前 10 時 10 分～午前 11 時 30 分

B グループ：2016 年 6 月 2 日(木) 午前 10 時 10 分～午前 11 時 30 分

さらに、A グループを 20 名ずつの A-1・A-2・A-3・A-4 の 4 グループに再分割し、B グループも同様に 20 名ずつの B-1・B-2・B-3・B-4 グループに分割した。

各訪問日には、4 つの各グループに対して、案内役として各 1 名の園職員が先導し、幼稚園型・保育所型の両園を巡った。

## 2-2) 認定こども園見学に先立つ事前教育

A・B グループとも、学内にて以下の 90 分間の事前教育を実施した。

A グループ：2016 年 5 月 12 日(木) 午前 10 時 40 分～12 時 10 分

B グループ：2016 年 5 月 19 日(木) 午前 10 時 40 分～12 時 10 分

訪問予定の認定こども園（幼稚園型及び保育所型）について、以下の予備学習を行った。

- ・子ども・子育て支援新制度上の認定こども園の位置づけについての学び  
幼稚園・保育所との差異について等
- ・認定こども園の類型についての学び  
訪問予定の認定こども園で見学する幼稚園型および保育所型について
- ・当日の時程  
A 短期大学に集合し園に移動して見学を終え、A 短期大学に戻るまでの時程、グループ分け、見学順路
- ・見学の際の注意点
  - ・子どもたちの保育に支障なく安全に見学させていただくことの大切さ。
  - ・見学の際の礼儀・マナー的心得の大切さ。
  - ・持ち物や服装・身だしなみ（安全への配慮とともに、学生が活動しやすいもの）。
- ・見学の視点について
  - ・幼稚園型・保育所型における年齢毎の保育室の配置、園庭等の屋外環境といった物的環境のみを園内マップを用いて解説し、「幼稚園型における 3 歳以上児クラスの室内環境」「保育所型における 3 歳以上児クラスの室内環境」「保育所型における 3 歳未満児クラスの室内環境」「その他の園内環境」の 4 区分で、視点の中心を環境として見学するよう伝えた。

### 2-3) 認定こども園見学

2-1) に予定が記載された通りの日程で訪問見学を行った。見学日当日には、A グループは 76 名、B グループは 78 名の 1 年生合計 154 名が参加した。A・B グループとも、5 名の A 短期大学教員が引率した。

### 2-4) 体験学習終了後の質問紙調査

体験学習終了後に、学生自身の感じる体験学習の効果を調査するべく、体験学習に参加した学生のうち、下記の事後指導に出席した学生 (A グループは 75 名、B グループは 76 名の 1 年生合計 151 名) を対象とした質問紙調査を実施した。

### 倫理的配慮

研究目的や概要を調査対象学生に伝え、学生が記入した質問紙記入内容に関しては、解析した結果を学生氏名が特定されない形で学会発表や学術論文等で発表することがある旨の了解を得た後、質問紙調査を実施した。調査実施日には全員が調査に同意して質問紙に回答がなされた。

見学園に対しては、園児や園職員等の個人情報が入り込まない形で情報を解析し、得られた知見を園に報告するとともに、学術論文等で発表することについて了解を得た。

### 調査内容

「園見学の中で、最も印象に残っていることは何ですか」「園見学をふまえて、今後の授業でもっと知りたいことは何ですか」「園見学中に行われた説明の中で、最も印象に残っていることは何ですか」「具体的にどのような内容が役に立ちましたか」の 5 項目について、園見学に参加した学生に自由記述で回答を求めた。

A グループでは 2016 年 6 月 9 日 (木) に質問紙調査を実施し、園見学に参加した 76 名中の 75 名が回答した。また、B グループでは 2016 年 6 月 16 日 (木) に質問紙調査を実施し、園見学に参加した 78 名中、76 名が回答した。

### 解析方法

樋口 (2004) の開発したテキストマイニングソフトウェア KH-Coder (Version 2.00f) <sup>7)8)</sup> を使用し、質問紙調査によって得られた語の相関に関する計量解析を行って共起ネットワークを導出し、園見学によって得られた効果を解析した。

### 3. 共起ネットワーク解析結果及び考察

共起ネットワークとは、テキストからそのテキストを特徴づける語の抽出を行い、特徴語同士の共起関係をネットワーク図にしたものである。テキストの中の隣接する語と語の関係性が強いものが線で結ばれている。共起ネットワークにおいては、出現回数の多い単語が大きな円で囲われている。ネットワークの中心の単語ほど濃くなっている。

本研究において共起ネットワーク解析を用いたのは、多くの学生が共通して回答に使用した語及びそのネットワークの中に、学生たちの共通の傾向を見出したいと考えたからである。

本研究では Jaccard 係数を 0.3 とし分析を行った。Jaccard 係数は類似性の指標であり、語と語の共起関係を表すものとして広く使用されている。

#### 3-1) 「園見学の中で最も印象に残っていること」の共起ネットワーク

「園見学の中で、最も印象に残っていること」に関する共起ネットワークを図 1 に示す。

多くの学生が「幼稚園」「保育園」の語をあげており、「思う」と関係している。「子ども」と「印象」と「残る」がつながっており、子どもについて印象に残ったことがわかる。

「遊具」「庭」「遊ぶ」がつながっており、種類の多い遊具が広い園庭にあり、楽しく子どもが遊ぶ園庭の様子が学生にとって印象深かったということが推察される。

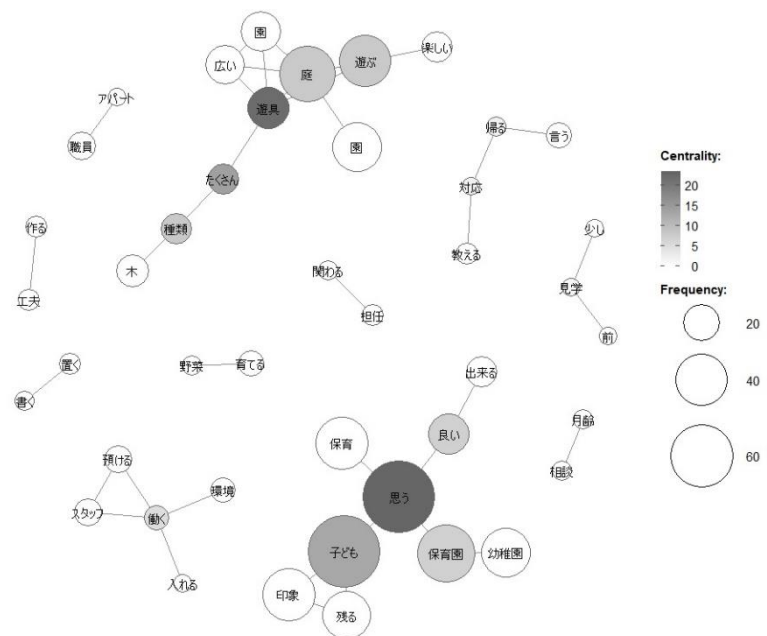


図 1 「園見学の中で、最も印象に残っていること」の共起ネットワーク

### 3-2) 「園見学中に行われた説明の中で最も印象に残っていること」の共起ネットワーク

「園見学中に行われた説明の中で最も印象に残っていること」の共起ネットワークを図 2 に示す。

図 2 において、「子ども」「思う」が強くつながっており、その周辺に「保育」「印象」「残る」が繋がっている。園見学中に行われた説明の中で、普段授業を受けている短期大学の学内では見られない子どもの姿および保育自体について、保育者より語られるリアルな姿が非常に印象に残ったのだと推察される。

見学した認定こども園においては、広い園庭をはさんで幼稚園型と保育所型の認定こども園が園庭をシェアするように向かい合って建てられており、保育園型と幼稚園型のそれぞれの認定こども園を対比的に見ていることが推察される。

園の環境としては、イネや夏野菜を植えて育てる姿が見られたことが「植える」と「育てる」のつながりに表れている。また、園庭には大きな樹木が林立している様子に学生が気づいたことが、「庭」と「木」のつながりに表れている。

また、5 歳児クラスでは園児が名前を書いている姿も見られたことが、「名前」と「書く」のつながりに表れている。

保育者や保育の物的環境のみならず、事務室の様子も見学させていただいたことで、事務関係等のスタッフも保育者とともに働く姿が見学でき、「スタッフ」と「働く」が繋がっていったものと推察される。

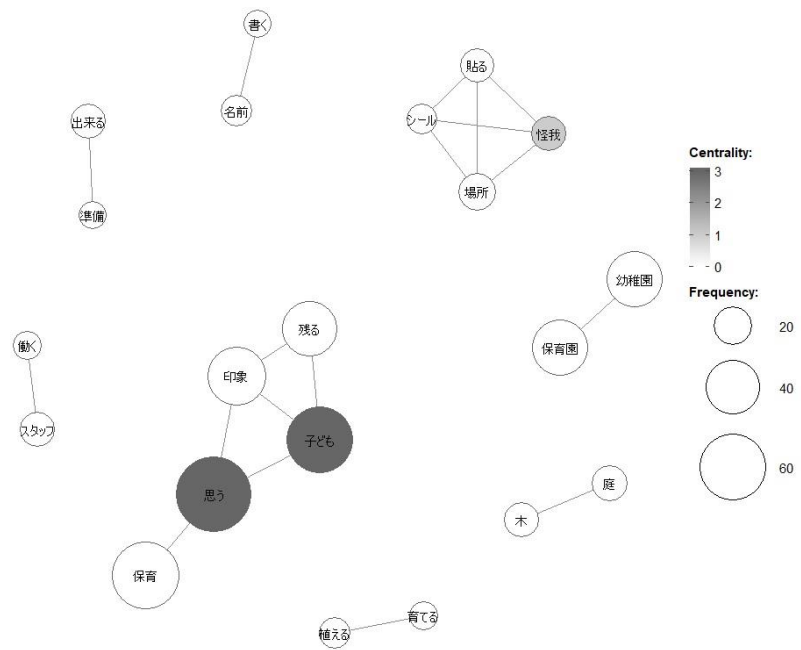


図 2 「園見学中に行われた説明の中で最も印象に残っていること」の共起ネットワーク

### 3-3) 「具体的にどのような内容が役に立ったか」の共起ネットワーク

「具体的にどのような内容が役に立ったか」の共起ネットワークを図3に示す。

「見学」「園」「思う」「子ども」「知る」というようにつながりが強いことから、今回の園見学を通して、子どもの様子を知ることができたと学生が考えることが推察される。

また「今後」「授業」「見学」「出来る」のつながりから、今後の授業でも園見学が出来ることを期待してる様子がうかがえる。

また、「見る」と「学ぶ」のつながりから、実際の現場を見ること、この時期の学生たちにとってはよい学びになったと考えているであろうことが推察される。

「それぞれ」と「理解」、「泣く」と「子」というような、子どもたち一人ひとりの個別の違いを踏まえた保育の大切さに気付いたとも推察される。

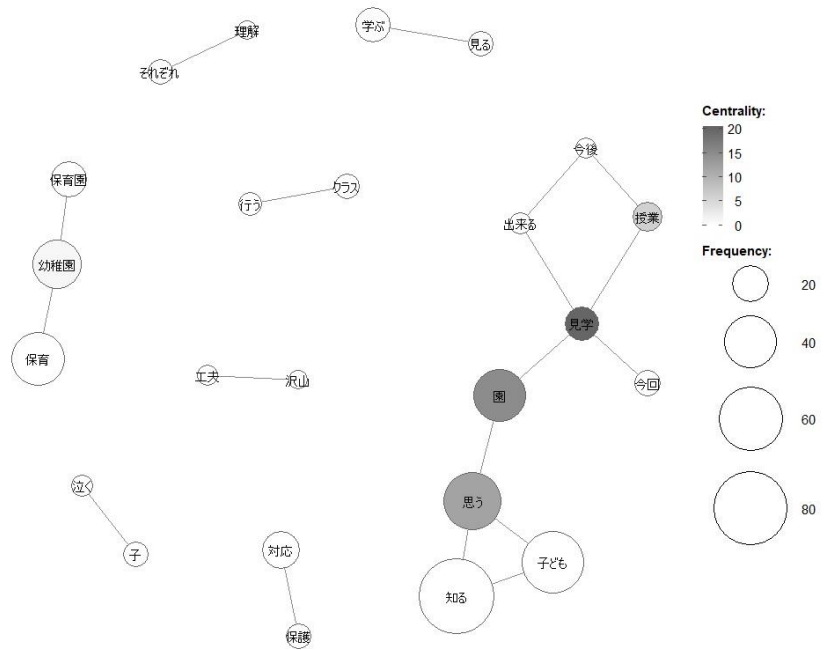


図3 「具体的にどのような内容が役に立ったか」の共起ネットワーク

### 3-4) 「園見学をふまえて今後の授業でもっと知りたいこと」の共起ネットワーク

「園見学をふまえて今後の授業でもっと知りたいこと」の共起ネットワークを図4に示す。「授業」を中心に「認定」「保育」「幼稚園」「違い」「保育園」に一連のつながりが見られることから、学内での授業においてしっかりと幼稚園・保育園・認定こども園の違いを解きたいという気持ちが生じたのだと思われる。

「実際」「見る」「授業」のつながりから、実際に保育現場を見る（見学する）ことを通して理解を深めるような授業を望んでいることも推察される。

また「授業」「園」「見学」「行く」のつながりからも、授業の枠の中で園見学に行くことの効果を実感し、今後ともこのように実際の保育現場を見て学びを深めるような授業展開を望んでいると考えられる。





見学参加者のうち、有効回答を記した 149 名の学生を対象とした「とても効果があったと思われる項目」としての回答数は、「保育現場のイメージがついた」が 113 名、「園としての保育環境についてのイメージがついた」が 109 名、「園生活のイメージがついた」が 83 名であった。現場イメージをつかむことには効果があったと理解できよう。

また、149 名中の 30 名のみ（2 割程度）の回答ではあるが、「授業と現場イメージをつなげやすくなった」という回答もあった。

「授業と現場イメージをつなげやすくなった」と回答した学生が 2 割程度にとどまった理由を丁寧に掘り下げていくことが大切である。これらの学生について自由記述を見ると、例えば「4 歳児クラスにて歌っていた曲が、偶然、今習って入れる曲と同一であった」「学校の授業でもリトミックを行っているが、幼稚園でもまさにリトミックを行っていた」という回答が見られる。「授業で扱われていることと同一の内容を偶然、保育現場で見かけた」ということが「授業と現場イメージをつなげやすくなった」という回答につながっていると推察される。

見学における学習効果としては、現場における保育環境や園生活、保育者の動きについてのイメージは掴めたようであるが、乳幼児の発達等の理解は難しいようであった。

#### 4. まとめ

保育士資格・幼稚園教諭免許の取得を目指して保育者養成校に入学する学生には、保育所・幼稚園・認定こども園における保育の具体的なイメージを持っていない場合が多い。さらに、乳幼児と関わった経験が乏しく乳幼児に関するイメージをすることが困難な場合もある。

本研究では、短期大学の学生を対象に、入学後早期の 5・6 月頃に保育現場（認定こども園）を見学することにより、学生が保育環境や保育に関して具体的なイメージを形成していることを確認することを目的として、見学後に質問紙調査を行った。

見学を通して、乳児・幼児の過ごす環境の違いや保育内容の実際に気づいたことが質問紙調査により明らかになった。また、保育の場の見学での気づきが、その時に履修している科目の理解とも有機的につながっていく様子も明らかになった。

「今回の園見学により、とても効果があったこと」という質問項目に対して、見学した学生の 2 割程度ではあるが、「授業と現場イメージをつなげやすくなった」という回答が存在したことに注目したい。まだまだ理解は浅い状況であるが、入学当初、保育現場のイメージを十分に持たないままに学内の授業を受ける状態では、教員の伝えたいことも十分に学生に伝わりにくいことであろう。その意味で、「授業と現場イメージをつなげやすくなった」という回答が 2 割程度でも存在したことで、学生が求める今後の授業展開のヒントと

し、入学して間もない学生が、乳幼児の過ごす場の保育環境や、保育自体への具体的なイメージを持つようにすることで、1年生がより授業理解を深めることに寄与していきたい。

本論文は、2018年3月に開催された日本保育者養成教育学会第2回研究大会におけるポスター発表(富山大士・野澤貴春「短期大学入学後早期の学生が保育現場を見学する意義」)に加筆したものである。

## 謝辞

本研究にご協力くださいましたM認定こども園の皆さまに心より感謝申し上げます。

また、本研究全体の計画・遂行・結果の検討についてお力添えいただきました野澤貴春先生に厚く御礼申し上げます。

## 引用・参考文献

- [1] 吾田富士子・浦田雅夫・仙石美千代・岡本依子・脇信明「学生の自己成長感を保障する保育実習指導のあり方Ⅱ～ヒアリング調査からの検討～」保育士養成協議会 専門委員会 平成27年度 課題研究報告 p.7  
[http://www.hoyokyo.or.jp/profile/senmon/research\\_report28.pdf](http://www.hoyokyo.or.jp/profile/senmon/research_report28.pdf)
- [2] 幼稚園教育要領(2017)(フレーベル館)
- [3] 厚生労働省通知 「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」(平成27年3月31日、厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知、雇児発0331第29条)
- [4] 一般社団法人全国保育士養成協議会(2017) 『保育実習指導のミニマムスタンダード2017年版』
- [5] 保育所保育指針(2017)(フレーベル館)
- [6] 茗井香保里編著(2017) 「新保育所保育指針(平成29年告示)における『安全』の記述について」 『幼稚園・保育所・施設実習 ---子どもの育ちと安全を守る保育者をめざして---』 p.7. (大学図書出版)
- [7] 樋口耕一(2004) テキスト型データの計量分析 ---2つのアプローチの峻別と統合『理論と方法』19(1) pp.101-115. (ナカニシヤ出版)
- [8] 樋口耕一(2014) 『社会調査のための計量テキスト分析 -内容分析の継承と発展を目指して--』 (ナカニシヤ出版)